（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社　やつかの郷		
事業所名	グループホーム　やつかの郷　西ユニット		
所在地	松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	令和3年3月12日	評価結果市町村受理日	令和3年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社ケーエヌシー
所在地	松江市黒田町４０番地８
訪問調査日	令和3年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設前に中海を望み、春には海岸道路に千本桜が咲く恵まれた環境にあります。同町内の方や、島根半島出身の方が多く利用しておられ、今までの静かな住み慣れた生活のように、穏やかに過ごしていただいております。中庭の庭園を眺め、青空を見上げひなたぼっこをしながら、馴染みの利用者同士でおしゃべりをしてゆったりと時間が過ぎているようです。地元で採れた野菜や、朝どれの魚を使った献立を栄養士が考え、毎食施設内で調理をしています。食事の準備や片付けなど、利用者と一緒に出来ることをしてもらい、食べることの楽しみや、役割を持った生活をしてもらえるよう支援しています。干し大根などの保存食も、利用者と一緒に作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域で住み慣れて馴染の暮らしが継続される延長線上に立地する当ホームは、その敷地や海岸道路沿いの千本桜が春を彩り又、中海と島根半島の景観が一望出来る風光明媚な自然環境のなかで、利用者は穏かに過ごしている。職員は理念を意識付け振り返って利用者本位の支援に努めている。共用空間は、中庭の庭園を眺める廊下や利用者同士の会話が弾みゆったりと時を過ごすホールが設えられている。地元産の野菜類や魚類は栄養士が食欲を高め五感を刺激する献立を考え、盛り付け、片付け等は利用者と職員が一緒に行い又、干し大根の保存食を作る等利用者の力が発揮されるケアに努めている。身体拘束廃止検討委員会や虐待防止委員会の会議は、拘束等は駄目の認識を高め、ケアの資質向上に努めている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現場の職員で意見を出し合って作成したものを継続している。毎年事業計画を作成し年度初めの職員会議で考え方を共有するようにしている。玄関やユニットに掲示し委員会や施設内研修等で議題にあげて意識統一に努めている。	現場職員の意見を反映した「地域とのふれあいを大切にあたたかい馴染みの関係を作り又、支え合う笑顔のあふれる暮らしを築く」との理念は、玄関等に掲示し、年度当初の職員会で意識づけられ、内部研修等で共有し、意識の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から畑の手伝い、大正琴、踊り、コーラスなどのボランティア訪問も受けている。毎年文化祭でPRの為のパネル展示も行っているが、本年度は中止された。	畑作のボランティア訪問は受け入れているが、避難訓練、ぼたん祭り等の自治会行事や保育園児と小学校生徒等とのつきあいはコロナ禍では中止となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりに参加し、民生委員の方との交流や、施設紹介などを行い、地域の研修会に活用していただけるよう働きかけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族関係者、地区長、駐在の方、地域の薬局の薬剤師等の知見者、行政関係者の参加で開催し、行事や研修等の活動報告や勉強会、今後の予定を伝え意見交換に繋げている。本年度はコロナ禍のため報告書と勉強会の資料を送った。	運営推進会議は適宜多職種に参加を要請し、事業所の勉強会等の報告や意見交換等、双方向的に話し合い支援に活かしている。今年度はコロナ禍のため開催は、書面で報告書や勉強会の資料を送付し、困難事例の相談や避難場所の紹介等も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見交換を行ったり、生活保護担当者には生活の状況を伝えたりして日ごろから協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者とは運営推進会議をはじめ認定更新時や市介護相談員来訪の時には、事業所の取組を伝える等協力関係を深め、折に触れて利用者の暮らしぶりが伝えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設で身体拘束廃止に関する指針をもとに身体拘束廃止・虐待防止委員会を定期的に開催し、センサーやマットコールの見直しをして拘束しないケアを実践している。日中の玄関の施錠は行わず外に出られる時には一緒に散歩するようにしている。	身体拘束廃止検討と虐待防止の委員会は同時に定期開催し、言葉遣い声掛けには面談等職員のメンタルにも配慮して注意をし、研修では拘束駄目のケアを意識づけ、玄関の施錠はせず散歩には付き添っている。	手続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修で積極的に学ぶ機会を設けている。現場で声をかけあい互いに助け合える関係づくりに努めており、リーダーが業務分担にも配慮し、職員には定期的に施設長や管理者が面談し、声をあげやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括との連携、弁護士への相談、成年後見制度を活用したり、ご家族からの相談を司法書士へつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には本人家族に十分説明し理解いただき、同意を得てから手続を進めている。改定の場合は、運営推進会議で話をし又、文書でも通知し周知を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回施設の新聞を発行し、年に2回お便りを送り様子を伝えている。何かあれば家族に連絡をとり報告し、面会時に声を掛け意見を得るようにしている。会議や行事への参加時にも意見を聞くようにしている。	年3回発行の施設新聞や年2回のお便りで本人の様子は伝えて、様子に何かあれば連絡報告により情報を共有し、電話や面会で意見等を貰いケアプランに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人的に話をする機会を持つようにしているが、日ごろは会議等の時間でも職員が気軽に意見が言えるような雰囲気づくりを心掛けている。休みの希望はできるだけ聞き、調整し対応するようにしている。	職員とは個々に話し合う機会がもたれ、会議では意見が言い易い雰囲気づくりが大切にされている。職員会議で提出される意見は代表者や管理者に伝えられ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の能力経験を考慮し業務内容等配慮している。希望休を望む職員には考慮して勤務の調整を行っている。資格手当や役職手当をつけてモチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正規職員、パート職員にこだわらず外部研修や資格取得にむけての研修に積極的に参加している。毎月職員会議の後に施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し他事業者との意見交換できる機会を作っている。職員は外部研修や交換実習を通じて意見交換を行っている。他事業所とは新聞を送り合い意見交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族も交え本人とコミュニケーションを取りながら、心配事や不安がなくなるように要望を受け入れ、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの場を設けてご家族の意見を聴き、要望に応えながら安心してご利用いただけるように努めている。ご利用者の家での様子や、昔の話を聞きながら不安や要望等を話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け止め、どのようなサービスが必要か見極め、当事業所に限らず他のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持っていただき、職員も教わりながら互いに信頼関係を築いている。手伝いをお願いしたり、工作や飾りつけで案を出してもらい、感謝を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や電話連絡で施設の様子も伝えている。個人で携帯電話を持っている利用者もいる。精神的に不安定になりやすい方には定期的に面会に来ていただくなど、家族と相談しながら、ともに本人を支える支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族写真やなじみのものを居室に置いたり、電話や手紙のやりとりや、スーパーに買い物に行く機会を作るようにしている。以前の関係を続けることに加えてここでの新たな仲間づくりも支援している。	家族の写真や馴染みの物が居室に持ち込まれ、仲間づくりを新たに支援し、ドライブは地元の家の近くに出かけ、スーパーで買物する事もあり、馴染みの場所や友達来訪継続の関係は途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し会話の橋渡しをしたり、関わりを大切にした声かけを行っている。食堂の席替えも密にならないよう配慮して様子を見ながら行っている。ユニット間での行き来もあり、孤立することのないように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は相談に応じて助言等行い支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の訴えのあったことは記録するようにしている。主に居室担当が関わり意見を聞くようにしている。モニタリングも担当が行うことで評価しながら思いを把握するように努めている。	変りないアプローチで思いや意向は把握して、本人の訴えは記録に残して、居室担当が主に関わりモニタリングも行い関係づくりをして、困難な場合は家族から聞取り、本人本位に思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人等とのコミュニケーションを大切にして話をうかがい、生活歴やこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの関わりを大切にして様子を知り、職員同士声を掛け合い、申送りノート等活用し情報共有し連携して、現状把握に努めている。医師や看護師、栄養士、薬剤師等多職種とも連携し、様々な視点をとりいれている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回担当がモニタリングし、更新時などは担当者会議を行う。家族参加は日程調整が難しい場合は電話で事前に意見を聞き、主治医には受診時に意見を聞いて計画作成に繋げている。看取りの場合は病院でも実施している。	モニタリングは、月毎に1回行い、更新する時は担当者会議で対応し、家族参加の難しい場合には、電話で意見を聞き取り、主治医受診時の意見も聞き入れてケアプランを作成している。看取り時は病院でも担当者全員で会議を開き介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や気づきを生活記録に記入して、日勤帯、夜間帯での一覧の申し送り事項やを活用して職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診に付き添えない場合に受診介助を行ったり、喫茶や買い物等の外出支援をコロナ禍で出来る限り対策をとって希望に応じて取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事では地域の方と一緒に地元のお菓子作りするなど一緒に楽しんだり、3B体操の講師を毎月招いて体操していた。コロナ禍で機会が減っているが、対策を講じて相談しながら再開していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や緊急時にも対応可能な協力医がいる。月1回職員が付き添い受診し、日ごろの様子を詳しく伝えている。家族対応で今までのかかりつけ医を継続する事も可能で入所時に決めている。重度の方は往診対応となっている。	協力医との連携は構築され、適切な医療支援に利用者は安心している。今は利用者全員が協力医受診ではあるが、入所前のかかりつけ医から協力医に移行する対応や重度の利用者には協力医の往診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師には出勤時以外も緊急時は24時間対応で随時電話で相談するほか、隣接するデイサービスの看護師や協力医の看護師等に指示を仰ぎ連携を取りながら受診、看護を受けれらる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、相談員と連携をとりながら、訪問した際には医師や看護師等からの状況把握に努めている。退院時のカンファレンスに出向いたり、サマリーや電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度に向けては話し合いをして進めており、現在も看取り契約をしている方がいる。今年も2名の看取りを行っており、今後も対応可能な範囲で取り組みたい。急変の対応について看護師より研修を受けたり、経験の浅い職員へもリーダーが配慮しながらチームケアをすすめている。	各職種参加のチーム支援で二人の看取りが行われた。コロナ禍で家族の参加もできず、看取り手順書を手元に置いて、経験の浅い職員の心のケアも担当する等、対応に苦慮したが、今後の看取りの取り組み対応には貴重な経験となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力を得て、救命講習を受講しているが、今年度は施設内研修を行った。ステーションにフローチャートや対応マニュアル等を張り周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設は民家から離れた場所にあり、グループ全体で協力して避難訓練をしている。水や米、毛布やカセットコンロ等の備蓄があり、定期的に防災委員会で見直している。地震や風水害、原発事故のマニュアル整備をすすめていきたい。	年2回の避難訓練は、誘導職員を決め避難経路も確認されてグループ全職員が協力して行い、防災委員会では災害時備蓄の見直しを定期に行っている。通報装置は消防署との緊急時連携が担保されている。利用者の症状から避難誘導の難しさを感じている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地元からの入所者も多いため、守秘義務について会議等で取り上げて注意を促してる。入社時や年度始めに個人情報や守秘義務については話をしている。方言の使い方や利用者との関係性を含め接遇について繰り返し会議であげている。	地元の利用者も多いので、会議等で守秘義務順守を促し、入社時や年度当初には、個人情報やプライバシーの確保を周知している。接遇では抑揚や感情を強調しないで、利用者が楽しく過ごせる方法を日頃の会話から探すことに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の訴えや意向を会話の中から探り、自己決定できるような声掛けや支援を行っている。いくつか選択肢を例にあげて聞くように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが出来る限り整うように配慮しながら、ケアプランにそって一人ひとりの状態に応じた対応を声掛けをしながら実施している。食事やお茶の場所など本人の意向に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合わせて快適な服を調整しながら本人の思いを大切にして衣類を選んでもらったり、買物支援、化粧等おしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方と作っている野菜や、地元の魚を仕入れ地産地消に取り組んでいる。切干大根等保存食作りや盛り付け、下膳等利用者と一緒にしている。魚が苦手な方には別メニューを提供する等食べる意欲がわくように関わっている。	地域の人と栽培し収穫される野菜や地元で獲れる魚は、利用者は力を発揮して職員と一緒に準備し、盛り付けや下膳等も同様に行っている。魚が苦手な利用者には、別メニューを提供し、一日の楽しい活動の一つとしての食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立て、バランスや食事形態を考え、無理なく全量摂取できるようにしている。食事量、水分量をチェック表に記入し、好みの物を時間を決めず、本人の状態に応じた対応で医師や看護師等多職種連携のもと提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助により口腔ケアを行い、チェック表に記入している。本人の状態をアセスメントし一人ひとりに合わせた方法で、必要に応じてハミングット等の用具も購入しながら口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認、把握し個別対応している。多くはRHパンツにパット使用だが、布パンツの方もいる。オムツの方は定期交換の他、声掛けしてトイレ誘導も2名介助で行っている。コスト面や家族の負担軽減のために一括購入している。	排泄チェック表でパターンを把握確認し、トイレでの排泄自立に向けて、手を差し伸べる誘導や歩行介助の個別ケアが行われている。トイレ拒否者や失禁者は二人対応が行われている。感染症等も考えて清潔が保持されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時は牛乳等の水分やヨーグルト摂取、散歩等の運動を促している。排便間隔や便の状態など場合によっては医師に相談し処方された便秘薬で適宜コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴回数を確保しており、受診や行事等予定に合わせて午前午後とも対応できるようにしている。家庭浴槽のため重度の場合対応しにくいが、入浴用の椅子でシャワー浴をしたり、清拭で対応している。	週２，３回の入浴は、１０時３０分から１６時３０分の間で午前午後が対応されている。拒否者には、職員２，３人で交代し声掛けも行ない、安全を配慮し、入浴困難の時は、清拭や時間日程をずらして支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の方には日中活動を促したり、午睡もホールで見守りのもとソファーで寝たり、畳で寝ていただくなど個別に支援している。室温調整や照明もその人に応じて調整しながら良眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	希望者は居宅療養管理指導を受け、薬剤師の内服管理や健康チェックを受けている。薬剤師、看護師がセットしているが、職員も一人ひとり既往歴の把握に努め、内服管理表で確認できるようにしている。服薬時はチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割を持ち職員も教わりながら互いに信頼関係を築いている。洗濯物干し、たたみ、食事の準備や後片付けを手伝って貰える様な環境づくりに努めている。喫茶店の利用で外出したり気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	歩行可能な方は車で受診に出掛け、帰りにドライブに立ち寄るなど定期の外出の機会となっている。施設の敷地が広く、景色も良い為、日光浴や散歩も喜ばれている。	コロナ禍では外出支援は行っていないが、事業所の車で受診に出かけた時には、帰りは工夫をして、ドライブで買物や喫茶を楽しんだり、海辺や山など、行きとは違った道を通ったりする外出が支援されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意のもとで本人がお小遣い程度のお金を所持しておられる方もいる。希望時には買物支援も行っている。コロナ禍で買い物が難しいが、移動販売のパン屋やヤクルト等買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、自分でかけられることもある。希望があれば職員が電話をかけて直接話をされたり、年賀状や手紙のやりとりも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの中央に中庭があり居室が囲むように配置されている。和を感じる中庭や施設周りも季節毎に花が眺められる自然豊かな場所であり、玄関正面の広いホールは大型テレビが楽しめる。合同の行事開催に使用している。明るく静かで移動にも充分な広さがある。	共用空間は、テレビや利用者くつろぎのソファーがレイアウトされて、廊下からは中庭が観賞され、居心地良く過ごせる支援が行われている。フロアの飾りつけは、利用者が職員と一緒に考え、自分の住まいだという意識を高めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファやテーブル、テレビを設置し、利用者の方が自由に使用できるようにして、思い思いに過ごしている。廊下に椅子を置き、ひなたぼっこをしながら、気の合う利用者同士で話ができる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に大きい収納が備え付けである。植物の好きな方は大きめの鉢を置いたり、写真を飾ったりしてくつろげるようにしている。	居室には備え付けの収納家具があり、整理等に活用されている。。好みの寝具や思い出の写真等は本人本位に持ち込まれ、畳の生活を望む時は畳を敷きくつろぎ、その人らしい居室づくりの工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、安全に移動できるように手すりも設置されている。畳敷きにする等自宅と同様の環境を整えたり、可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。		